



# 「米騒動絵巻」を使った授業実践例

海城高等学校 横井成行

2010年代に入って、第一次世界大戦(1914～1918年)の100周年にちなむ「歴史のふり返し」がさかんである。「米騒動」も、史的評価の転換を迎えつつある。ここでは、「米騒動絵巻」を用いながら、近年の研究動向を織り込んで生徒たちの関心を引き出してみたい。

まずは、生徒に「米騒動絵巻」を自由に見せ、また、このシーンが描かれた場所が地図(名古屋の米騒動関連地図)上のどこにあたるかを説明したうえで、なんでも気がついたことを指摘してもらおう。

「さて、地図とあわせて10分ほど見てもらったけれど、どうですか？ なんでも気がついたことをいってみてごらん」

**Aさん**：この場所は、川沿いに市電が走っていてさまざまなお店の立ち並ぶ名古屋のなかでも栄えていたところですね。私はこういうところでお米屋さんを集団で襲うことの意味が気になります。

**Bさん**：警官に蹴散らされて川に落ちている人もいますね。この騒動に参加した人々はいったいどんな人だったのかに僕は興味があります。

「Aさんの意見、もっともだね。この場所は、米屋町という場所へいく途中だ。川は暗渠化されたが今も車の多い通りで、めだつ場所とすることができる。これをめぐって何か意見があるかな？」

**Cさん**：めだつ場所で米屋が襲われたという事実そのものが、さらに多くの人々の知るところになって、騒動に参加しよう

という気持ちを起こさせるのではないですかね。

「そうだね。名古屋の場合は、町に繰り出す前に鶴舞公園という市民のよく知る場所で米価の引き下げや米を求める演説が行われたあと、続々と人が集まって米屋襲撃に参加したという研究があるからね。神戸でも、湊川公園に集まった人々が町に繰り出すうちにどんどん人が増えていったといわれている。Bさんの質問にも答えることになるが、近年の研究では、日ごろ、都市の下層でその日暮らしをしていた「職工」とよばれる単身者や、力仕事をして賃金をかせいでいた女性などが不満を募らせていて、米価高騰を契機に米屋襲撃という「非日常的」な騒乱に積極的にかかわっていったことが指摘されている」

「では次に、この表(表1)をみてみよう。この表は、大阪での米騒動にどの地域からきた人々が参加したかを示している。どんなことに気づくかな？」

**Bさん**：ああ。大阪の地元の人というより、外からきて大阪に住み着いていた若い男性が多いことがわかります。

**Dさん**：先生、先ほどから、名古屋・神戸・大阪といった大きな都市ばかりを話題にされていますが、中学のとき、米騒動の始まりは富山県の「女

| 本籍                      | 住所                         | 職業     | 氏名  | 年齢 |
|-------------------------|----------------------------|--------|-----|----|
| 和歌山県伊都郡橋本町大字古佐田 127     | 北区天神橋筋西2丁目 223 合同紡績会社社宅    | 紡績職工   | A 男 | 43 |
| 京都府綴喜郡美豆村字美豆村小字古川 207-2 | 北区天神橋筋西4丁目 175 内藤方一方       | 莫大小職工  | B 男 | 24 |
| 不明                      | 北区天神橋筋6丁目 美濃屋方             | 土方職    | C 男 | 26 |
| 奈良県磯城郡上ノ郷村大字白木 442      | 西成郡西中島村大字南方 光吉亀太郎方         | 齒刷子製造職 | D 男 | 23 |
| 広島県尾道市久保町 315           | 南区広田町 芝田石松方                | 理髮職    | E 男 | 37 |
| 京都府宇治郡宇治村大字六地藏小字町並 50   | 西成郡豊崎町本庄 桂久吉方              | 莫大小職   | F 男 | 29 |
| 滋賀県蒲生郡北比都佐村大字小谷 2003    | 西成郡豊崎町字本庄 674 赤尾文次郎方       | 理髮職    | G 男 | 21 |
| 大阪市北区河内町1丁目 16          | 西成郡豊崎町南長柄 84               | 汽船ボーイ  | H 男 | 23 |
| 大阪市北区天神橋筋東3丁目 201       | 北区天神橋筋東3丁目 201             | 古本業    | I 男 | 50 |
| 兵庫県美方郡八田村岸田 117         | 西成郡豊崎町南長柄 145 山西安太郎方       | 手伝職    | J 男 | 36 |
| 愛媛県越智郡龜山村大字名三番戸         | 西成郡豊崎町字本庄 847              | 煉瓦穴開職  | K 男 | 34 |
| 広島県賀茂郡三津町 2547-2        | 北区天神橋筋東4丁目 1041            | 煉瓦積職   | L 男 | 47 |
| 滋賀県高島郡西庄村大字蛙口 77 番屋敷    | 北区天神橋筋西3丁目合同紡績株式会社 舎宅D 68号 | 大工     | M 男 | 18 |

▲表1 北区天神橋筋ほかにおける騒擾事件の被告(氏名はアルファベットとし、性別のみを示す。)

(島田克彦「近代大阪における市街地周辺部の開発と社会変動」『都市文化研究』(大阪府立大学)16(2014年)、『大正七年米騒擾事件関係資料』(大阪市立大学学術情報総合センター所蔵)より作成)

房一揆」だったと習いました。いったい、米騒動をどうとらえたらよいのでしょうか。

「おっ、いい質問が出ましたね！」

**Dさん：**？

「実は、米騒動の始まりが富山県だったという説は、近年見直されてきていて、1917～20年まで続く「米騒動」の一部だったことが指摘されているんだ(表2)。では、少しおさらいをしてみようか。明治の地租改正以降に成立してくる土地の所有のあり方や地租の金納義務の制度化で農村ではどんなしくみができたかな？」

|     | 時期             | 備考                    |
|-----|----------------|-----------------------|
| 第1期 | 1917年6月～18年7月末 | 米価のつり上げ(シベリア出兵の兵員乗船前) |
| 第2期 | 1918年8月～18年12月 | シベリア出兵開始・街頭騒擾化        |
| 第3期 | 1919年1月～20年春   | 戦後恐慌で米価を含む諸物価の崩落で終息   |

▲表2 米騒動に関する近年の整理

**Aさん：**寄生地主制といって、地券を持ち金納義務を負う地主が高率の小作料を小作人から農産物現物で取り、地主はその農産物を農産物市場に出して現金にかえるしくみができていました。

「そうだね。地主の義務である金納額は一定だから、農産物売買のもうけが大きければそれだけ地主の利益は増えるわけ。その利益を用いて銀行や鉄道を経営する人も出てきた。ゆえに、彼らを農業ブルジョワジーという研究者もいる。ところで、第一次世界大戦が始まると、アジア域では欧米向けの船舶や工業製品の製造がさかんになって、好景気と貿易黒字が続くようになるね。そうすると、生糸や養蚕を通じて世界とつながっていた農村部も含めて、一種の金余り現象になる」

**Bさん：**つまり、農業ブルジョワジーの人たちが余ったお金でさらにもうけようと、米価のつり上げをしようとしたんだ！

**Cさん：**でも、その分、都市の工場で働く人たちの給料だって上がるでしょ。

「2人ともいいところをつくね。最近の研究では1917年の6月前後から、米価は高騰し、それに賃金が追いつかなくなってきて生活の危機を感

じた造船所・炭鉱・工場で働く人たちの賃上げ要求のストライキや米価引き下げを要求する事件があとを絶たなくなってきた事実を米騒動の中に入れて考えるべきだとされてきている」

**Dさん：**米価高騰のきっかけは1918年の「シベリア出兵」だって聞きましたが…。

「確かにそういわれてきたが、シベリア出兵の兵員向けの食料には植民地の朝鮮半島産米が充てられていたので、内地米は無関係だった。むしろ、もうけの手段として人為的に内地米価がつり上げられていた」

**Bさん：**先生、日本の「米騒動」は、人為的につり上げられた米価に追いつけなかった賃金で暮らさなければならなかった人々の生存権の保障要求だったと考えてよいのでしょうか。

「そういう面がある。ただ、軍隊と警察の力で民衆を鎮圧し、その報道すら禁じて「米騒動」の処理を誤った寺内内閣が倒れ、立憲政友会の原敬内閣が成立するという「政変」をもたらしたという政治的意味もあったと考えられる。また、政府は米不足を補うために東南アジア産の米を緊急輸入したが、当時のアジア域は干ばつに苦しんでいて、日本の行動がグローバルに悪影響を与えていた点にも目が向けられてきている。グローバルな視点にたつなら、戦争に伴う食料危機は、例えばロシア革命(1917年)やドイツ革命(1918年)、あるいはハンガリー革命(1919年)などのような政体の変革につながる側面が共通しているね。君たちがその比較をしてみるとおもしろい研究になると思うよ」

【参考文献】

島田克彦「近代大阪における市街地周辺部の開発と社会変動」『都市文化研究』(大阪市立大学)16(2014年)  
富江直子「1918年米騒動における二つの「生存権」—モラル・エコノミーとシティズンシップ」『福祉社会学研究』14(学文社,2017年)  
和田彦彦「米騒動を地域と世界で考える」『愛知から見える世界史』(愛知県世界史教育研究会編,2018年)  
「タイムスリップ1918・大正の名古屋—米騒動絵巻に見る100年前のモダン都市—」展図録『米騒動絵巻—描かれた大正の名古屋—』(名古屋市蓬左文庫,2018年)  
井本三夫「米騒動という大正デモクラシーの市民戦線—始まりは富山県ではなかった」(現代思潮新社,2018年)  
米騒動・大戦後デモクラシー研究会、井本三夫編『米騒動・大戦後デモクラシー百周年論集』(集広舎)I(2019年)